

N I J I

虹

国見町立
県北中学校
R1.11.29 (金)
第 30 号

3学年だより



三者面談、 ありがとうございました。

お忙しい中、三者面談ありがとうございました。3年生は、進路先決定が主な面談内容だったと思います。20分という短い時間でしたが、事前にご家庭で相談していただき、実りある面談ができたことと思います。



進路決定後は、目標実現に向けてひたすら自分を磨く、自分の力をつけるしかありません。面接練習も始まりました。国見町で行っている受験対策講座に参加している生徒も多いようです。自分で、どのような方法で勉強するのが大事かと思います。

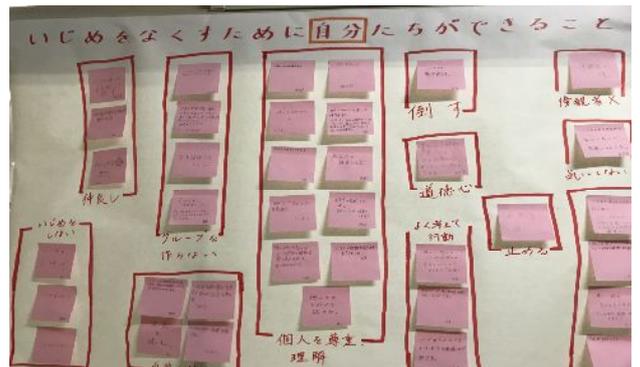
3月4日までの時間を、今すべきことにひたむきに取り組み、必死に努力している自分を信じて、頑張っていきましょう。

3学年主任 今村恵美子



**この県北中からいじめをださない、させない、
見逃さないの思いで、自分にできること
を実践していきましょう！**

【学級でまとめたアクションプランの例】



受験確認書の提出 ありがとうございました。

☆期日厳守での提出に感謝いたします。合わせて、私立受験料・写真代、さらには推薦等の書類等もありがとうございました。今後は、遺漏のないよう、事務手続きを進めていきます。



「いじめに関する 熟議②」開催



「いじめを解決するために私たちができること・しなければならないこと」をテーマに、第2回いじめ熟議が行われました。学級の問題点やいじめをなくすために自分ができること・しなければならないことを考えました。

♥来週の行事予定♥

	朝自習	○行事予定 ★提出・持参物
2月	テスト 勉強	○全校集会 月1～6 *短縮・簡単
3火	テスト 勉強	○第5回実力テスト1～5・火6 授業
4水	テスト 復習	○水1～6 【完全下校16:10】
5木	テスト 復習	○木1～6・総合:面接練習 【完全下校15:20】 *短縮・簡単
6金	読書	○金1～5 *簡単清掃 【完全下校14:50】

国見町家庭の日作品コンクール 作文部門 『最優秀賞』

【祖母が教えてくれたこと】

県北中学校 松浦さん

私の家族は、今ではめずらしい三世代七人で生活している大家族です。父と母は共働きで、母は勤務時間が不規則なこともあり、家事の全般は祖母が中心となって行っていました。私が小さい時には私や妹たちの面倒も見てくれました。そんな祖母に異変が起きたのは、私が小学校5年の頃です。物忘れが多くなり、何度も同じことを聞いてくるようになりました。片付けしでは、私たちが大切にしているものをしまい、なくしてしまうことも多くありました。アルツハイマー型認知症です。一年一年症状が悪化していき、最近では一人でトイレに行くことも、歩くこともままならない状態でした。

そんな夏休みに入る直前のこと、事件が起きてしまいました。祖母が転んで大腿骨を骨折したのです。すぐに入院して手術を受けました。認知症である祖母は、一人にしておけず母が病院で付き添うことになりました。そのことにより、母が家に不在になることが今までに増して多くなりました。私は勉強しなくてはいけないのに、家の事をしたり、妹達の面倒を見なくてははいけなくなり、とてもイライラしました。心の中で「どれだけ

迷惑をかけるつもりなの？」と祖母への心配の気持ちより、いら立ちのほうが強くなり、なかなか病院へお見舞いに行こうという気持ちになれませんでした。そんなある日、私のいとこがおぼと一緒に毎日食事の時間に病院へ行って食事の手伝いをしたり、車いすで散歩したりしていることを知りました。胸がドキッとしました。小さい時私が泣いていると一番にかけつけて声をかけてくれたこと、一緒に買い物に行ったこと、一緒に遊んだこと、たくさんの事を思い出しました。

「ばばごめん」骨折して入院していたことを迷惑に思っていた自分が恥ずかしくなり、情けなくなりました。私は、すぐに病院に行ってる祖母のところに行きました。祖母は、「あら、こんにちは」と、私の事を覚えていないのか、分からないあいさつで私を迎えてくれました。祖母は入院する前より認知症が進行していて食事も、歯磨きも手伝いが必要になっていました。面倒をみてもらっていた小さい時のことを思い出しながら、食事や歯磨きの手伝いをしました。付き添っている母からは、祖母が天井を見つめながら「理央、ほらあぶないよ。理央、こっちに来てなさい。」と心配してつぶやいていることもあったと話してくれました。祖母の中では小さい頃の私のままのようですが、いつも私のことを心配してくれている祖母に変わりはないんだなと思いました。

今回の祖母の入院で、母とおばは交代で付添をしていました。すぐに怒ってしまったり、言うことを聞かなかったりで祖母と母、おばはよくケンカをしたと言います。付き添いをして朝帰ってくると、「疲れた、あのね、ばばがねえ」といつもけんかをしたことを楽しそうに話してくれました。その話を家族みんなで聞いて、「むかつくね。笑っちゃうね」と言いながら大笑いする毎日でした。その時私は、疲れていても、イライラしていても、それを分かち合って笑いに変えてしまうことができるのが、この家族のいいところだなと思いました。今回の祖母の入院で大切にすることにたくさん気づかされたり、思い出したりすることができました。お互いを思いやりながら、それぞれ自分ができることは何かを考えて行動していくことが大切だと思いました。自分ができることをしっかりと最後まで行って、助け合い、声をかけ合いながら、今までよりも、もっともっと最高の家族になっていきたいです。そして、祖母を温かく家に迎えたいと思います。